

## 第10回国土管理専門委員会(現地視察、会議)の主な内容について

## 【現地視察概要】

- ・ 長野市中条地区の大西の棚田を視察し、棚田 100 選にも選定されている棚田が担い手不足等により維持が困難になっている状況を確認した



大西の棚田 (平成 30 年)

- ・ 長野市中条地区の姥久保地区の以前棚田だった場所を視察し、棚田全体が放置され、自然植生となった事例を確認し、地域又は個人として文化的価値等の外部不経済は大きいとは感じていないことについて説明を受けた



姥久保地区の以前棚田だった場所 (平成 30 年)



(参考) 昭和 50 年頃の同一の場所

- ・ 長野市七二会地区の大安寺地区でソルガムの栽培現場を視察した(以下の現地会議概要の信州大学天野教授事例発表で詳細に記述)

## 【現地会議(長野市)概要】

## ① 信州大学 工学部 工学部長 天野氏からの取組事例の紹介について

- ・ 長野市と信州大学の共同事業で、食料やエネルギーの自給率が低いという問題の解決に向けて取り組んでいる
- ・ 収量が多く、手間がかからないことに加え、小さいうちは動物の被害に遭わないという特徴を持つ、ソルガムに着目した
- ・ 将来的に、中山間地の狭い面積で栽培したのも流通・加工して販売されるルートを増やしていきたい
- ・ 中山間地では収穫に労力がかかることが課題

## ② NPO法人 まめってえ鬼無里 吉田氏による取組事例の紹介について

- ・ 再び里山を利用することが里山の再生につながると考えた
- ・ マンパワーを増やすことが重要で、交流人口を増やすことを考えている
- ・ 担い手が不足しており、将来的には地域住民も取組に関わってほしい
- ・ 地域住民は、どういう土地に手をかけるべきなのか、どういう土地は放置しても良いのか、客観的に見られていないと思う

## ③ 各委員からの主な御指摘

- ・ 今年度と昨年度の議論との関係性や、今回の発表事例の今年度の議論での位置づけ等をよく整理してほしい(中村委員)
- ・ 費用対効果が高い管理方法が存在しない場合でも、公的資金を投入する必要性を検討するべきではないか(土屋委員)
- ・ なし崩し的な耕作放棄や撤退を防ぐための協議の場を設け、管理ビジョンを策定していくことが必要ではないか(広田委員)
- ・ 土地を空間的に分析し、いろんなステークホルダーが関わって、意思決定をしていくプロセスが必要ではないか(一ノ瀬委員)
- ・ 一回モデル的にどこかの地域でスキームを試してみてもどうか(中村委員)

## ④ 一般傍聴者からの主な御指摘

- ・ 地権者に代わり「管理組織」がある程度の規模で直接的に対応することも必要
- ・ チャートやフロー図ではなかなか表しにくい複雑な問題があるように思う
- ・ 公益性を高めることには賛成だが、公益性のために個人に不利益を被らせることは難しい
- ・ 田舎の土地利用はほとんどが個人ベースの成り行きで口出しできない。荒廃地を(新発想で)模索する主体に有効に関われる仕組みを是非検討願いたい
- ・ 国土交通省と地域住民の見るところが違っているので、現場の声をもっと把握してほしい
- ・ 住民が不利益を感じていないかと本当に不利益がないかどうかは別だとは思いますが、田舎(地方)はその地域に住む人々のものである、という考えは忘れてはならないと思う